

テニユア・トラック職の代わりに、ポスドク研究者となる博士号取得者数が増加（2月19日）

ジョージア州立大学(Georgia State University) 経済学教授のポーラ・スティーブン氏 (Paula Stephan) は、2月14～18日にマサチューセッツ州ボストンにて行われた米国科学振興協会 (American Association for the Advancement of Science : AAAS) の年次総会で、科学分野における博士号取得者のキャリアに関する発表を行った。

「研究者はどこへ向かう？科学研究分野における人材の経済動向 (Where Are They Going? Economic Trends of the Scientific Work Force)」と題された発表の中で同氏は、若手研究者がテニユア・トラックにある職に就けないために、ポスドク研究者として勤務せざるを得ない状況を指摘している。

具体的には、①生物科学分野における博士号取得者で、テニユアもしくはテニユア・トラックにある研究者数は、学位取得後の年数に関わらず、2000年から2008年の間に減少しており、また自身の専門分野と関連の深い職に就いている研究者の割合も、1997年の70.75%から2008年には59.29%まで大きく減少していること、②物理学分野で2009年と2010年に博士号を取得したポスドク研究者の13%は、他の職がないためポスドク研究者として勤務していること、③コンピューター科学分野では、2004年と2005年にはテニユア・トラック職に就いた新規博士号取得者は225人以上で、ポスドク研究者は約100人であったが、2011年の新規博士号取得者でテニユア・トラック職に就いた研究者は約100人、ポスドク研究者は約250人と逆転していること、などを紹介した。

Inside Higher ED, Research at AAAS meeting notes difficult job market in academic science  
<http://www.insidehighered.com/news/2013/02/19/research-aaas-meeting-notes-difficult-job-market-academic-science>